

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

仁方中学校区 校番1 仁方中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))																		
***	○主体的に学び、思考力・表現力を育てる。	考える授業づくり	○「授業に向かう姿勢」等は、90%以上の肯定的な自己評価となっている。しかし「自分の考えを記述する」「相手に分かりやすく話す」「自分なりの学習方法がある」の3つが今年も90%に届かなかった。 ○教師の自己評価をみると「思考を促す課題・発問」「表現する場の設定」で「できている」の割合が低く、生徒の課題の部分とつながっている。授業改善の取組をさらに進めていくことが重要である。	○授業の中で生徒が「自分の考えをノートなどにまとめる」「根拠や理由を付けて自分の考えを伝える」活動を保障するために、授業者が「生徒の思考を促す発問・課題設定」と「生徒に表現させる場面の導入」に取り組む。全員が取り組むために「考えるカード」、「思考カード」を作成し全職員で取り組む。																		
		基礎学力の定着と向上	○学力調査・実力試験の結果は全国平均以下である。計算力・漢字力・文章を読み取る力など、基礎的な学力の定着に課題がある。読書習慣の弱さも課題である。 ○「宿題は遅れてでも必ず提出しています」は76.0%、「毎日ノートでは、めあて・振り返りを意識しながら行っている」は77.1%と毎日の提出物を出きることや考えて自主学習に取り組むことに課題がある。宿題の中身を工夫しながら意味のある自主学習へとつなげていく必要がある。	○学校全体で補充を実施し、2つのコースに分けて基礎学力の向上を目指す。「基礎コース」は、教科担当が2人体制で実施し、困難に感じている部分を的確に指導する。「標準コース」はキュビナを用いて、自ら学習する態度を身に付け、さらなる学力向上を目指す。また、補充の内容を毎日ノートで復習し、授業と家庭学習の内容を結び付けるように促していく。																		
**	○自らを律し、他人を思いやる豊かな心を育む。	自校肯定感・集団適応感の向上	○学校行事への充実・達成感ともに肯定的評価が95%を超えており、縦割り活動を中心とした取組は効果があったと考える。また、保護者からのアンケート結果も肯定的評価が98%で学校行事に対して理解・協力をしていただけである。 ○自己肯定感の項目はおおむね達成をしているが、「他人から好かれていると思う」の項目は70%だったので、取組が必要である。 ○生徒の学級集団における適応力は肯定的評価が92%で目標は達成できている。しかし、「学級の一員でよかった」の項目のみ90%を下回っているため、学級ごとにできる取組を全学級で行う。	○下半期においては、合唱コンクール・修学旅行・オープンスクール・新生徒会組織づくり等を通して集団づくりを進めていく。来年度に向けて2年生のリーダー性を高めていくことも意識して取り組む。 ○自己肯定感の中でも「他人に好かれている」の項目が低い数値だったので、学級や部活動、縦割り活動の中で、生徒間での評価を行えるような取組を行う。																		
		規範意識の向上と豊かな心の育成	○N中メソッドの定着は生徒・保護者のアンケートで肯定的評価がともに90%を超えており、定着していると考えられる。しかし、「あいさつ」の項目において、保護者アンケートでの肯定的評価は70%と課題があるように感じた。生徒アンケートでも「大きな声で返事をしている」や「レベル4のあいさつをしている」の項目において、低い数値が見られたので、声を出すことに課題があると考えられる。 ○ボランティア活動には、積極的に参加ができていく。	○あいさつや返事、号令など声を出すことが必要になる場面に苦手意識がある。委員会ごとの取り組みの中で「あいさつクラスマッチ」や「号令クラスマッチ」を行う。 ○朝会など全員が集まる場での返事、あいさつについて、できたことは適正に評価し、できていなければやり直しをさせるなど、指導を徹底していく。																		
*	○たくましい体を育成する。	生徒が主体的に取り組む体力の向上	○ハンドボール投げでは全学年男子が県平均を上回った。女子の1年生は県より-0.62と僅差だったが、2・3年については昨年よりも差が広がっている。 ○持久走では、1年男女と2年男子が県平均を上回った。2年女子・3年男女についても、昨年度よりは県平均との差を縮めてきている。 ○運動部への加入率が低いことが女子の成績に影響していることが予想される。	○12月に再実施する体力テストで重点項目の県平均を上回ることができるように授業前の補強トレーニングを行い、基礎的な体力の向上を図る。 ○体育委員会と協力し異チャレンジマッチの取組を進め、クラス単位で上位入賞を目指す。																		
		心身の健やかな発育	○生徒の肯定的評価は、全校で59.4%であった。課題は居場所づくりを行うことや、継続的な教育相談を行うことである。 ○保護者の肯定的評価は、92%だった。課題は生徒の健康管理を行い、安全教育を行い、日常生活に生かすことである。 ○外部講師を活用した授業での生徒の肯定的評価は、日赤救急法講習会100%、熱中症授業は全学年で100%だった。課題は、防災意識の継続及び実践への取組である。	○NSRを核にした生徒の居場所づくりや計画的な教育相談を継続して、行うとともに学校生活のときから生徒に寄り添うこと。 ○上半期の取組では常に真剣に取り組む生徒の姿が見られた。下半期も継続して外部講師を活用した安全教育を行い、日常生活に生かすことができるような振り返りを行っていく。																		
業務改善	○教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備する。	組織的な業務改善の推進	○年度初めは時間外勤務が多いが、計画的に業務を進めることで、徐々に減少している。教職員で業務改善アンケートを実施し、すぐに実施可能な業務から改善を進めている。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="6">時間外勤務45時間未満の教職員の割合</th> </tr> <tr> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>38%</td> <td>63%</td> <td>63%</td> <td>81%</td> <td>100%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ○教育相談(個別面談)、放課後の部活動の指導、校長と3学年の個別面談など、意図的に生徒と直接向き合う時間を確保することで、生徒理解に努めている。	時間外勤務45時間未満の教職員の割合						4月	5月	6月	7月	8月	9月	38%	63%	63%	81%	100%		○タブレットの活用により、必要な範囲でペーパーレスに努める。 ○教職員のタイムマネジメント力を高め、見通しとめ切を決めた仕事の仕方を行う。 ○個人ではなく組織で業務を行うことで、互いに関わり合い、来年度につながる仕事の仕方を行う。 ○補充学習の実施。計画的な教育相談の実施。放課後の会議を精選し、部活動の指導を行う。
時間外勤務45時間未満の教職員の割合																						
4月	5月	6月	7月	8月	9月																	
38%	63%	63%	81%	100%																		